

資料渉猟余話

その77

わが子の学校生活の歩みは、いろいろの形で保存され、成人式とか結婚とか人生のしかるべき折に本人に渡してやるのが、現在最も多く行われているのであるまいか。

何を遺しておいてやるか、場所をとるし学年を重ねるに従って量も増えて来ても余り、子どもの数が多くなるとこの傾向は一層顕著になり、大掃除を機に通知表など数点に限って遺し、他は処分廃棄ということになる

ところが南信州地域資料センターに提供さ

れた資料の中に、写真で見るとな一年間の厚い学習の歩み・記録の冊子を発見して、こうした保存冊子は初めて拝見したので、みごとに冊子でもあり、そのアイデアに感嘆し紹介を思い立った。

吉澤 健

わが子の学校生活の歩みの保存

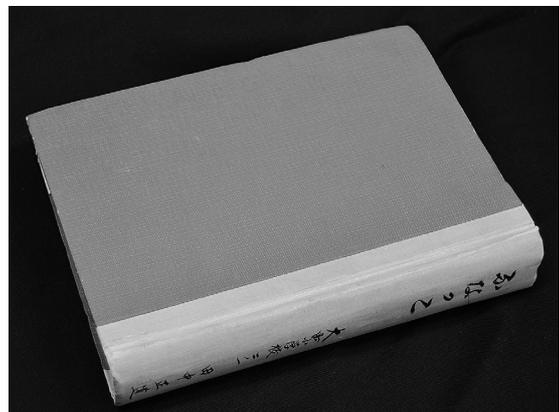
次に、夏休みはじめ長期休業の学習冊子、この中には教育会で発行した学習帳も綴じられている。

さらに、当然のことながら授業で使った計算や漢字の練習プリント類全てと授業で描いた友だちの顔の絵、作

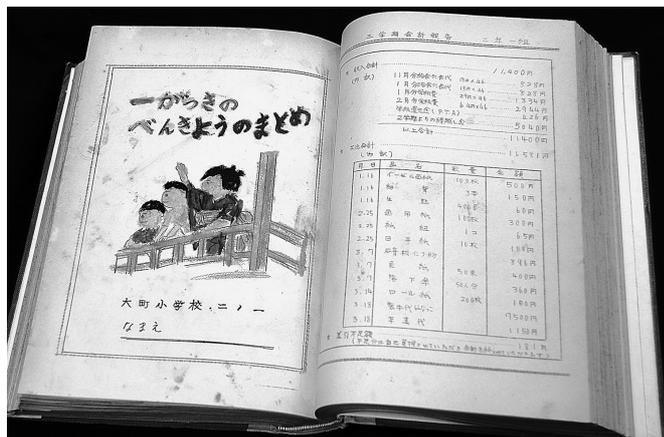
先生が週一回出される学級通信が全て綴じられている。担任からのお知らせ、子どもの作文などの学習記録、父母からの質問や感想、参観日の話し合いの概要、遠足など行事参加の子どもの文章、担任の感想などが取り上げられている。

この冊子にまとめられているのは、小学校二年時の一年間である。この学年が取り上げられたのは、想像するに、この子どもはこの年転校して来て、新しい学校、学級で生活を始めた学年であったことが、この年の最初の学級通信でわかる。

「今日子どもが学習のあゆみの整本されたのを持って帰りました。帰るなり、母ちゃん誰々のはうんと厚かったよ、厚い人はいいね。おたよりもみんな入れたんだった。だれどうすい人もあつたよ。今度はおたよりもみんな取っておいね。とどきれどきれに何か大発見でもした様子、こんな嬉しいことありませぬ(後略)」



製本された学習記録



上記、内容の例

資料センターでは、